

**令和6年度 秋田県
サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者
更新研修**

1日目

秋田県障害者社会参加推進センター

演習ガイドンス

令和6年度よりフルカリキュラム化 された更新研修の全体像



サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修の告示別表

基礎研修（うち相談支援従事者初任者研修講義部分） ※本研修時点においては、告示未改正		時間数
講義	1 障害者の地域支援と相談支援従事者（サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者）の役割に関する講義	5h
	2 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法の概要並びにサービス提供のプロセスに関する講義	3h
	3 相談支援におけるケアマネジメント手法に関する講義	3h
合計		11h

基礎研修（うち研修講義、演習部分）（改正後）		時間数
講義	1 サービス管理責任者の役割に関する講義	4.5h
	2 アセスメントやモニタリングの手法に関する講義	5.5h
演習	3 サービス提供プロセスの管理に関する演習	7.5h
合計		15h

更新研修		時間数
講義	1 障害福祉の動向に関する講義	1h
講義・演習	2 サービス提供の自己検証に関する演習	5h
	3 サービスの質の向上と人材育成のためのスーパービジョンに関する講義及び演習	7h
合計		13h

※1 更新研修は、令和元年度から実施

※2 令和5年度までは1及び2のみの実施でも可とする

という扱いでしたが、令和6年度から13時間のフルカリキュラムに移行します。

更新研修 1日目演習の内容

目的

- ①行政の動向や制度改正等の最新の情報(アップデート)を得る
- ②サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者としてのこれまでの業務内容を振り返るとともに、知識・技術の更なる向上を図る
- ③サービス提供職員等へのスーパービジョンの方法を学ぶ

	研修項目	獲得目標
①	障害者福祉施策及び児童福祉施策の動向	最新の動向を学習することにより利用者の制度的な環境の変化を理解する
②	サービス提供事業所としての自己検証 【事前課題1】	各自事業所の取組状況や地域との連携の実践状況を出し合うことにより、コンプライアンスを理解し、今後の事業所としての取組を明確して実践に活かす
	サービス管理責任者としての自己検証 【事前課題2】	サービス提供責任者としての自らの業務を振り返り、支援のあり方や地域とのかかわり方、今後自ら取組むべき課題を明確にして実践に活かす
	関係機関との連携 【事前課題3】	地域の相談支援専門員や関係機関、さらに(自立支援)協議会との連携状況を再確認して実践に活かす。 (自立支援)協議会の役割を理解する。
③	事例検討	サービス提供職員へのスーパービジョンの具体的な技術を獲得し、実践に活かす

更新研修 演習全体の流れ

- アイスブレイク

 - 自己紹介

- 演習1 事前課題1

 - 「サービス提供事業所としての自己検証」

○ 休憩 ○

- 演習2 事前課題2

 - 「サビ見管としての自己検証」

- 演習3 事前課題3

 - 「関係機関との連携」

- 研修のまとめ

更新研修 3つの演習

演習1 事前課題1

「サービス提供事業所としての自己検証」

演習2 事前課題2

「サービス管理責任者等としての自己検証」

演習3 事前課題3

「関係機関との連携」

アイスブレイク 自己紹介

①自己紹介

「氏名、所属先、現在の業務」

+ α

(最近のマイブーム・推しなど)

おひとり 1分



自己紹介の進め方

- 1人目の方は、指名します
- 1人目の方だけ1分アナウンスします
- 2人目から時計回りで進めます
- 2人目からグループで時間管理

演習Ⅰ

サービス事業所としての自己検証

【演習1】 目的と要点

「サービス提供事業所としての自己検証」

＜目的＞

このセッションは、サビ見管としてのスキルアップに加え、**サビ見管業務を行える環境（風土）を整える**ことも必要なことから、

事前課題1を用いて組織環境の振り返り並びに**グループメンバー取組みを参考にして自事業所に取り入れられることを明確にする。**

【演習1】 事前課題1を使用した報告と討議

演習1「サービス提供事業所としての自己検証」について

＜事前課題1＞

「組織体制」と「チームワーク」の2つの大項目

- 組織体制の取組の良いところとその理由
- 組織としてサビ児管のフォロー、バックアップ体制
- チームワークの取組の良いところ
- 良いチームを作るためにサビ児管として行っている事

上記4点について、
現時点から直近の事業所での取組を
振り返って記載していただきました。

演習1の手順

事業所としての自己検証

①事前課題1の報告【報告時間1名3分+質問2分×8名=40分】

- ・報告(3分)→質疑(2分)を行う。
- ・「良いと思う取組み」をメモする。

②報告の「良いと思う取組み」を共有する【15分】

- ・メモしたものをKJ法で整理しまとめる。

③全体共有(発表)【3G×3分=9分】

- ◎組織体制の取組の良いところ
- ◎チームワークの取組の良いところ

理由なども参考にして、「良いな」と思ったことは箇条書きでメモをする。

演習1

事業所としての自己検証

〇〇Gr

組織体制

良い取り組み

コミュニケーション・チームワーク

良い取り組み

人材育成

良い取り組み

地域とのかかわり・ネットワーク

良い取り組み

演習1の留意点

1. 事前課題の内容整理をするにあたっては、批判的なことは避け、**良い取り組みと思われた内容について意見交換し、自身の事業所でも参考にして取り組んでみたいことを整理**する。
2. 報告時の「**良い取り組み**」を見る視点として、①情報伝達や共有方法(日常の業務的コミュニケーション、会議等)、②サビ児管のフォローアップ体制(サビ児管が困ったときの相談できる体制)、③チームアプローチ(管理者や看護師、支援員など事業所内の連携において、サビ児管としてどのような工夫やアプローチをしているか)など。
3. 利用者支援にあたって、サビ児管として個人のスキルを高めていくこと
の他に、**支援を行う環境・仕組みを組織として整えることも必要**なことから、サビ児管と管理者とで課題を共有し、改善に向けて協議することも大切である。

1.報告 3分

事前課題1の**全項目**を使って3分で報告です。1分前にアナウンスしますが報告者が工夫して、持ち時間を活用してみてください。報告を聞いているグループメンバーの皆さんは、参考になった!取り入れたいと思うことをメモしてください。

2.質問 2分

2分間でメモを使って取り入れる・持ち帰るための質問をしてください。質問の仕方にコツがあります。つつい質問の理由といった「うちの事業所では…」なども伝えたくありませんが、ここではできるだけ、コンパクトに端的に聞いてみてください。「チームの風通しが良い」という報告には「風通しがよくなるために何か工夫してますか？」など

3.グループディスカッション 15分

グループメンバーの報告を聴いて良いところを共有し、自事業所に持ち帰り、すすめるためのアイデアなどをグループ間で意見交換する

発表

**令和6年度 秋田県
サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者
更新研修**

秋田県障害者社会参加推進センター

演習2

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者としての自己検証

演習2 目的と要点

<目的>

このセッションは、事前課題2を用いて自己のサビ見管業務や支援のあり方を振り返るとともに、グループメンバーの意見やアイデアを参考にして、改善したい課題の整理や、質の向上、スキルアップに向けた今後の取組みを明確にする。

【演習2】 事前課題2を使用した報告と討議

演習2「サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者としての自己検証」について

＜事前課題2＞

1. 個別支援計画の作成について

- ①個別支援計画の作成について
- ②モニタリングについて
- ③利用者への説明と同意、書面計画書の交付について

2. 記録について

3. 会議について

4. 他の従業者に対する技術指導及び助言について

- ①日常業務での助言・指導について
- ②上記の業務を組織として行える体制整備について

5. 苦情解決について

6. 虐待防止について

7. 機密の保持について

上記7点について、現時点から直近の事業所での取組を振り返って記載していただきました。

【演習2】 事前課題2を使用した報告と討議

演習2「サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者としての自己検証」について

＜事前課題2 続き＞

それぞれの質問に対する回答方法

①出来ている～出来ていないを0～10点でチェック

②0～10点をつけた理由を記入

総ての質問項目に「研修後どのように取り組みますか」と言う、まとめの段階で記入する欄もある。

7項目について、現時点から直近の事業所での取組を振り返って記載していただきました。今年度はそれら項目より2項目について報告、検討、まとめをおこないます。検討する2項目は、グループによって異なります。

【事前課題2】 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者
振り返りシート（自己検証用）

以下の事項について、現時点から一年程度を振り返り記載してください。
※この振り返りシートは、サービス管に求められている役割に対して、現時点でどこまで行えているのかを振り返り、不十分な点はどのようにすれば向上するかを確認しています。

1. 個別支援計画の作成について。

(1) 個別支援計画の作成について。

①個別支援計画の作成は、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者にとって重要な業務です。あなたが担当した利用者・者に対して、意思決定支援に配慮した個別支援計画の作成ができていますか。

できていない。 できている。

0. 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10.

②0～10点をつけた理由について記入してください。

③研修後どのように取り組みますか（ここは研修の中で記入します）。

(2) モニタリングについて。

①サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者は、計画を作成することも重要ですがモニタリングによる利用者・者や環境の変化に対応したサービス（支援）提供や向上に反映する業務が重要です。そのため定期的なモニタリング（6ヶ月に1回以上）が行われていますか？

できていない。 できている。

0. 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10.

【演習2】 グループ別 報告・検討項目

1.個別支援計画(1)～(3)

全グループ

3.会議について

AGr・EGr・IGr

4.技術指導について

BG・FGr・JGr

5.苦情解決について

CGr・KGr・GGr

6.虐待について

DGr・HGr・LGr・MGr

サビ見管としての自己検証

演習2のポイント

1. 事前課題の内容整理をするにあたっては、批判的なことは避け、良い取り組みと思われた内容について意見交換し、サビ見管として自己の業務を振り返りながら、業務の質の向上に向けて取り組んでみたいことを整理します。

2. 報告時の「良い取り組み」を見る視点として以下を4点確認してください。

● 本人の意思に基づく本人主体の個別支援計画になっているか、そのためのプロセスをどのように管理しているか。本人参加のモニタリング会議等おこなっているか

● 目的に沿った会議を効果的に開催できているか。勤務形態が異なる環境において、会議の質を高めるためにどのような工夫がされているか。

● 人材の多様化に即した育成管理ができているか、組織的な人材育成プログラムはあるか、スーパービジョンを取り入れているか

● 苦情について、適切に対応をしているか。対応結果やマニュアルなど

● 権利擁護。虐待防止に向けた組織的な取り組みがあるか。不適切な支援が確認された場合、サビ見管として確認、修正、介入できる環境と取り組みがあるか。また、良い支援や取り組みに対してどのような評価をしているか

サビ見管としての自己検証

演習2は いいね と アイデア (助言) *new!* を伝えます。

事前課題2を確認しながら、報告者ができていないと感じていることや、演習で学びたいと思っていることについても、報告してください。

グループメンバーは、報告内容のいいね!と感じた部分と、報告者の困っている事や悩んでいる事に、アイデアや助言を伝えるためのメモを取ってください。

演習2の手順

サビ児管としての自己検証

①事前課題2の報告

【報告時間5分→質問2分=7分×7~8名=56分】

- ・「良いと思う取組み」をメモする。
- ・「どのようにすれば10点に近づけるか」について、改善策やアイデアを考えてメモをする。
- ・報告者の「学びたい事・知りたい事」へのアドバイスをメモする。

②報告に対して良いと思う取組、改善策やアイデアを共有する。 【20分】

- ・メモをしたものを使いKJ法で整理しまとめる

③全体共有(発表)【4G×3分=12分】

- ◎良いと思う取組
- ◎10点に近づけるアイデアを色分けして、箇条書きで記入する。

演習2

事業所としての自己検証

〇〇Gr

個別支援計画の作成

良い取り
組み

10に近づける
アイデア

モニタリングについて

良い取り
組み

10に近づける
アイデア

説明と同意

良い取り
組み

10に近づける
アイデア

会議or人材育成など(Grによる)

良い取り
組み

10に近づける
アイデア

演習2の進め方について(1人7分)

1. 報告【5分】

事前課題2の個別支援計画と1項目(グループ別)を使って5分で報告です。1分前にアナウンスしますが、報告者が工夫して持ち時間を活用してみてください。報告を聞いているグループメンバーの皆さんは、参考になった!取り入れたいと思うことと、困っている事へのアドバイスをメモしてください。

2. 質問・回答【2分】

2分間でメモを使って取り入れる・持ち帰るための質問をしてください。

3. ディスカッション【20分】

報告を聴いて、持ち帰りたいとおもった「いいね」と、報告者が演習で学びたいことに対する「**アドバイス**」や改善点の共有をおこなってください。

発表

**令和6年度 秋田県
サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者
更新研修**

秋田県障害者社会参加推進センター

演習3

サービス管理責任者・児童発達支援
権利責任者として、関係機関との連
携に関する自己検証

【演習3】 目的と要点

「関係機関との連携」

<目的>

- ①関係機関との連携
- ②相談支援専門員との連携、
- ③担当者会議の開催、
- ④自立支援協議会への参加について、

事前課題3を用いて自己の業務を振り返り、グループ参加者の意見も参考にしながら改善を図っていく。

演習3 目的と要点

- 1、関係機関との連携（企業・学校・医療機関・他の福祉事業所等）
- 2、相談支援専門員との連携について
- 3、担当者会議の開催（参加）について
- 4、自立支援協議会への参加について

<目的>

このセッションは、事前課題3を用いてサビ見管として、地域資源や関係機関との関り方や連携実績を振り返るとともに、グループメンバーの意見やアイデアを参考にして、改善したい課題の整理や、協働の実現に向けた関係づくりのヒントを得て、地域づくりに向けた今後の取組みを明確にする。

演習3の留意点

1. 「良いと思う取り組み」「10点に近づくかアイデア」「本研修で学びたい事・知りたい事」について、他者の改善に向けた工夫やアドバイス等をメモする。
2. サビ児管として必要な業務ができていないこともあるかもしれないが、落胆するのではなく、まずは役割業務を理解し、スキルアップしていくことが大事である。
3. 同じグループのメンバーの報告を聞いて、自分及び自事業所に活用できる事柄を見出す。

【演習3】 事前課題3を使用した報告と討議

演習3「関係機関との連携」について

＜事前課題3＞

1. 関係機関（企業・学校・医療機関・他の福祉事業所等）との連携
2. 相談支援専門員との連携
3. 担当者会議の開催について
4. 自立支援協議会への参加について

【事前課題3】 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者
振り返りシート（連携用）

以下の事項について、現時点から一年程度を振り返り記載してください。
※この振り返りシートは、すべてに調査を求めています。できていない点は半以上に該当したり、現状の維持を期待し、できていない不十分な点はどのようにすれば向上するかを記載しています。

1. 関係機関（企業・学校・医療機関・他の福祉事業所等）との連携

ご利用児・者の生活は福祉サービスだけで構成されているわけではありません。そのため、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者は必要に応じ関係機関との連携が重要な業務となります。日頃より、関係機関との連携をどのくらい意識して業務を行っていますか。

できていない。 〇 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 できている。

① 0～10点をつけた理由について記入してください。

② 研修会のように取り組みますが（ここは研修の中で記入します）。

③ 自分でできたとと思うのは担当率全体の約何%ですか？
約 _____ %

④ 外部との連携が必要となった担当者は過去1年間で何人でしたか？・・・計 _____ 人

⑤ 連携が効果的であった事例を記載していただくと幸いです。

【演習3】 事前課題3を使用した報告と討議

演習3「関係機関との連携」について

<事前課題3 続き>

それぞれの質問に対する回答方法

- ①出来ている～出来ていないを0～10点でチェック
- ②0～10点をつけた理由を記入
- ③本研修で学びたい事・知りたい事
- ④グループディスカッションを経て、自事業所にもちかえ

【事前課題3】 サービス管理者・児童発達支援管理者
振り返りシート（連携用）

以下の事項について、現時点から1年程度を振り返り記載してください。
※この振り返りシートは、すべてに満点を求めていません。できていない点以上に無かった点、現状の維持を期待し、できていない不十分な点はどのようにすれば向上するかを記載しています。

1. 関係機関（企業・学校・医療機関・他の福祉事業所等）との連携

①利用児・卒の生涯は福祉サービスだけで構成されているわけではありません。そのため、サービス管理者・児童発達支援管理者は必要に応じ関係機関との連携が重要な業務となります。日頃より、関係機関との連携をどのくらい意識して業務を行っていますか。

できていない。 _____ できている。

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

②0～10点をつけた理由について記入してください。

③研修後どのように取り組めますか（ここは研修の中で記入します）

④自分よりよくできたと思うのは担当者全体の約何%ですか？

約 _____ %

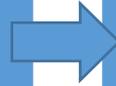
⑤外部との連携が必要となった担当者1年間での何人でしたか？・・・約 _____ 人

⑥連携が効果的であった事例を記載していただきたいと思います。

【演習3】 グループ別 報告・検討項目

2. 相談支援員との連携 全グループ

1. 関係機関との
連携について



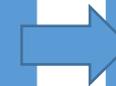
CGr・FGr・LGr・MGr

3. 担当者会議の開催



BGr・EGr・HGr・IGr・KGr

4. 自立支援協議会の参加



AGr・DGr・GGr・JGr

演習3の手順

関係機関との連携

①事前課題3の報告

【報告時間4分→質問2分=6分×7～8名=48分】

- ・「良いと思う取組み」をメモする。
- ・「どのようにすれば10点に近づけるか」について、改善策やアイデアを考えてメモをする。

②報告に対して良いと思う取組、改善策やアイデアを共有する。

【25分】

- ・メモしたものを使いKJ法で整理しまとめる。

④全体共有(発表)【4G×3分=12分】

◎良いと思う取組
◎10点に近づけるアイデア
を2色の付箋に色分けして、箇条書きで記入する。

演習3の留意点

1. (自立支援)協議会は、障害者の地域生活を考える場であることから、事業所が協議会に参画する意味として

①利用者は地域の支えもあって生活していることから、事業所も地域の視点をもつこと。

②対応が難しい利用者への支援に行き詰ったり悩んでいるときは、専門機関や地域の理解と協力が得られるよう、日ごろから繋がりをもつこと。

③災害時の地域連携に向けて繋がりをもつこと。

様々な状況と状態をイメージしながらグループで検討します。

2. サビ児管が主体的に相談支援専門員や関係機関と連携する場合、どのような場面でどのようなアプローチがあるのかを、グループで検討します。

演習3

事業所としての自己検証

〇〇Gr

相談支援専門員との連携

良い取り
組み

10に近づける
アイデア

担当者会議の開催orその他の

関係機関等(Grによってことなる)

良い取り
組み

10に近づける
アイデア

良い取り
組み

10に近づける
アイデア

演習3の進め方について(1人6分)

1. 報告【4分】

事前課題3の全項目を使って4分で報告です。1分前にアナウンスしますが、報告者が工夫して持ち時間を活用してみてください。報告を聞いているグループメンバーの皆さんは、参考になった!取り入れたいと思うことを様式にメモしてください。

2. 質問・回答【2分】

3分間でメモを使って取り入れる・持ち帰るための質問をしてください。

3. ディスカッション【25分】

報告者へフィードバックの時間です。報告を聴いて、持ち帰りたいとおもった「いいね」と、報告者が演習で学びたいことに対する「**アドバイス**」や、それぞれの困りどころを共有し改善点をグループで話し合ってください。

発表

ワークシート1を使って、一日の研修を振り返り、気づきや改善点と改善に向けて、事業所で取り入れたい取り組みを「具体的」に記入する

ワークシート 1

| 1日目 | 自己検証による課題抽出
【改善したいと感じたポイント】 | 課題解決に向けた取り組み
【自事業所で取り入れたいと思った取り組み】 |
|------------------------------|--------------------------------|---------------------------------------|
| 演習1
事業所としての
自己検証 | | |
| 演習2
サビ児管としての
自己検証 | | |
| 演習3
関係機関との連携
についての自己検証 | | |

更新研修 3つの演習

演習1 事前課題1

「サービス提供事業所としての自己検証」

演習2 事前課題2

「サービス管理責任者等としての自己検証」

演習3 事前課題3

「関係機関との連携」

研修のまとめ

○事業所の良いチームと良い組織

他施設のよい取り組み参考して活用しましょう

○本人中心の個別支援計画

ご本人の意思や想いが根拠になる。→意思決定支援の大切さ

○虐待は言葉から

サビ見管として、「支援」と「かわり」を確認していますか？

注意、指導だけでなく、良い支援への評価も忘れずに

○連携の大切さを考える

自分の限界・施設の限界・福祉の限界は、当事者の限界か？